

まちの話 だい

5月2日 | 豆茶たちも茶祖に祈念

八十八夜にちなみ、茶祖・栄西禅師^{えいさいぜんじ}の遺徳をしのび茶業振興を祈願する「茶感謝祭」が、牧之原公園で開かれました。

式典には茶業関係者ら約70人が出席。代表者が、立像前の祭壇に手揉みの新茶を供えました。式典後には、かなや茶娘大使と神谷城保育園の園児が茶娘姿で登場。「金谷音頭」などを笑顔で披露し、会場の雰囲気盛り上げました。



5月8日 | 満開のバラも一緒に祝福

平成4年にオープンした「ばらの丘公園」の入園者が24年目で200万人を達成し、同園中央広場で記念セレモニーが行われました。

節目の入園者となったのは、母の日に合わせて静岡市葵区から訪れた和田弘子^{わだひろこ}さん一家。3人には記念品が贈られたほか、市長と一緒にくす玉を割ったり「ミスシマダ」の苗木を記念植樹したりして、特別な日を祝いました。

トピックス

お茶の郷が18年の歴史に幕



「島田市お茶の郷」は、県への移管のため5月29日に閉館し、18年の歴史に一旦幕を下ろしました。

平成19年度からは、ハラダ製茶(株)の指定管理の下、市の評価制度3期連続最高ランクを獲得したほか、地域イベントへの出店や外国人観光客への免税店営業など、「島田市のお茶」の知名度向上に貢献してきました。今後、県が進める「茶の都」の拠点施設としてリニューアル工事を行い、平成30年春のオープンを目指しています。



営業後に終了式を行う施設スタッフの皆さん



5月8日 | 身近な不思議科学を実感

子どもたちに理科への関心を深めてもらおうと、元東海大学海洋学部教授の中山隆雄^{なかもりたかお}さんが講師を務める「子ども科学実験隊」が金谷公民館で開催され、15人の小学生が参加しました。

子どもたちは、身近にある洗濯のりとホウ砂^{しゅ}を混ぜてできる「スライム」づくりに挑戦。液体と個体の特性や結びつきを学びながら、「不思議だね」「これ面白い」などと、楽しく科学を体験しました。

5月13日 | 茶文化を静岡から世界へ

日本茶の魅力の世界に発信する「世界お茶まつり2016 春の祭典」が、お茶の郷や富士山静岡空港を主会場に開催されました。

石雲院^{せきうんいん}（牧之原市）で行われた開会式では、県知事や市町の首長など関係者約100人が、国内外の茶の発展を願って冷抹茶で乾杯。3日間にわたり、茶どころ静岡から茶文化を紹介する、さまざまな催しが繰り広げられました。



5月29日 | 大井川に架かる光の橋

蓬莱橋を色とりどりのぼんぼりで彩る「蓬莱橋ぼんぼり祭り」が開催され、普段と違う風情と催しが、多くの来場者を楽しませました。

欄干に設置された約120個のぼんぼりは、近隣住民や絵手紙教室の生徒らが手作りで制作。辺りが暗くなると、優しい明かりがともるとともに橋脚の「緑茶化ライトアップ」もスタートし、幻想的な蓬莱橋が闇夜に浮かび上がりました。